

乙女高原が好き！0904号

ボランティアによる乙女高原の草刈りも、おかげさまで10周年 今年も乙女高原でいい汗かきました

ボランティアを募集して行う、今のスタイルになって10回目・10周年の草刈りでした。ですから、最初からこのイベントに参加している方はもうあれから10歳も年をとったということです。

前々日の天気予報は「雨のち晴」。やるか・やらないか判断しなければならない身にとって一番イヤな予報でした。寒かったら子どもたちが一番かわいそうだと思って、キッズ用に使い捨てカイロを買ってしまいました。ところが、だんだん天気予報はいい方になっていき、当日は朝から青空。まったくもって、天気に恵まれています。10年間、雨に降られて中止になったことはただの一度もありません。

それでも「昨夜降った雨で、道路が凍ったらイヤだな」と思い、早朝、乙女に登りました。凍っていたら、できる範囲でお知らせしようと思ったのです。そうしたら、同じことを考えていた県スタッフの川島さんにお会いしました。準備が一段落したところから、参加者がどんどん集まってきました。

10団体に感謝状をお贈りしました

開会行事が始まりました。いつもの年と違ったのは、草刈りで大きくお世話になっている団体に感謝状をお渡ししたことです。10団体に、記念品とともに感謝状をお贈りしました。



10周年記念感謝状贈呈団体

田丸グリーン基金
山梨ロータリークラブ
成城大学生物部・年輪会
峡東地区県有林造林推進協議会
金峰前山恩賜県有財産保護組合
北奥仙丈外二山恩賜県有財産保護組合
山梨市西保財産区
山梨市西保下財産区
山梨市倉科財産区
山梨市諏訪財産区

毎年毎年、乙女高原の草刈りにご協力
くださり、ありがとうございます。

いよいよ作業開始です！

手刈りの班は3つのグループに分かれ、それぞれ担当の場所で草刈りを開始。早く終わった班は、まだやっている班にお手伝いに行きました。草原の中に生えてきた、カマでは歯が立たない若木は、のこぎりで切りました。草刈り終了後は、大きなビニールシートに刈った草を載せて、おみこしのように運びました。途中から軽トラックも参加して、ビニールシート・軽トラックと連携プレーで草を運びました。

ロープ回収係は、遊歩道のロープを回収しました。前日降った雨のせいか、ロープがいつも以上に

固く杭に巻き付いていて、はずすのが大変だったそうです。回収係が集めたロープを、今度は巻き取り係が、来年、使いやすいようにまき直して、裏の倉庫にしまいました。

刈り払い機を持ってこられた方には開会行事後、残っていただいて、作業上の注意を聞いていただいてから、作業開始です。なんといっても、事故が起きたら大変なことになってしまうのがこの班です。皆さんには細心の注意を払って作業をしていただきました。きれいに並んで刈りながら斜面を登っていただいたので、下から見てみると、とてもきれいでした(水泳のシンクロみたい)。

キッズ(子どもたち)班は、ブナじいさんまで行き、ブナじいさんの根元に落ち葉のふとんをかけるプログラムを実施しました。



キッズ班は作業終了後、ブナじいさんの前で記念写真。きっとじいさんも喜んでいるよ。今度、乙女高原に行ったら、じいさんに会いに行ってみてね。

1週間前に下見兼下準備をしました。じいさんのまわりには柵を作り、林道から子どもたちが落ち葉のいっぱい入った袋を背負って登る斜面には安全確保のためにロープを張りました。それらがとてもうまく機能しました。子どもたちはもちろん、面倒を見ている大人たちも楽しそうに林道に積もった落ち葉を集め、ブナじいさんまで運び、そして、「ふとん」をかきました。

豚汁係は竹居さんの指示のもと、おいしい豚汁をつくるべく、朝から奮闘。お昼近くには、まわりにいい匂いをまきちらしていました。なお、豚汁の食材は毎年藤巻さんと竹居さんの好意で皆さんに提供できていることも併せてお知らせします。

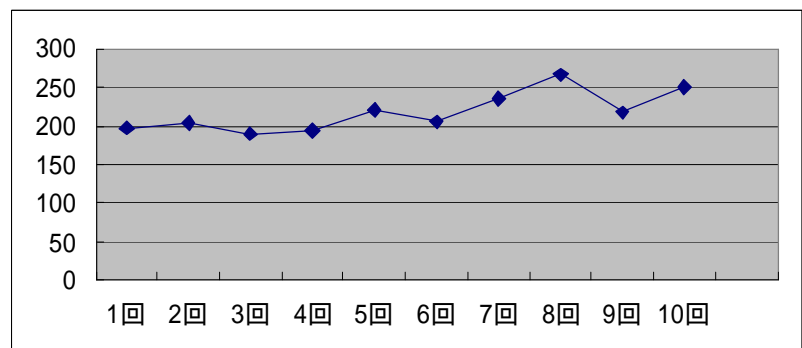
救護班のお二人には、もしもの時に備えて、さまざまな救急用品を準備していただきましたが、今年は誰もケガすることなく、具合が悪くなる人もなく、終わらせることができました。救護班が手持ちぶさただったということは、そのイベントは成功だったということです。

記録班には、草刈りの様々なスナップ写真を撮っていただきました。何年か何十年か後に、これらが貴重な資料になると思います。

お昼ごろには仕事は片付き、みんなで食事を取りました。温かくて、おいしい豚汁が胃袋に染み渡ります。今年はおかわりがたくさんできたので、幸せでした。

いつものように草原で記念写真を撮り(この写真が来年の草刈りのちらしに載ります)、各班の代表に仕事内容の紹介と感想を述べてもらい、閉会行事をして解散しました。

なお、今年の参加人数は**251名**でした。第1回からの参加人数の推移は右のグラフのように右肩上がりです。それにしても、毎年200名もの乙女高原ファンが集まってくれるなんて、乙女高原は幸せものです。



草刈りボランティアへの参加者数の推移



毎年恒例の「記念写真」を別の角度から撮った写真。それこそいろいろなどころにお住まいの、いろいろな年代の方が集まっています。記念写真が翌年の草刈りのちらしに使われます。

その後、残れる方には残っていただき、お茶会をしました。そして、反省や感想を出していただきました。「鉄は熱いうちに打て」です。終わった直後に、まだ、その熱が冷めないうちに、反省点を出し、みんなで分かち合うことはとても大切だと思います。来年の草刈りをよりよくするために…。

以下は、茶話会等で出された反省点です。皆様のご意見もぜひ、お聞かせください。よろしくをお願いします。

【草刈り 2009 反省】 良かった点 改善点

【全体的に】

とにかく天気恵まれた。誰かの日頃の行いがいいからか？
 けが人や具合の悪い人が一人もいなかった。
 大勢の方が参加してくれた。深謝。
 山梨市・山梨県・ファンクラブのスタッフがとても気持ちよく働いてくれた。
 スムーズに運営できた。

【受付】

手刈りの方にはA B Cのカードがあったのでよかった。
 当日参加で草刈り機を持ってきてくださった方をどこへ配置すればいいのかは、県(市?)の方に聞かないとわからなかった。手刈りと同様のカードのようなものがあれば

よかった。

【ロープ回収】

雨でぬれていて、なかなか取れなかった。マイナドライバーがあると、少しは作業がはかどるのでは。

【手刈り】

自分たちの分担が終わったグループで他グループの応援をした。この協力態勢はものすごくいいと思うが、早く終わった班から草の運び出し作業に移ったほうが、作業の効率などいいと思う(大勢がいっぺんに集中しても、軽トラには限りがあるので)

【機械刈り】

去年は機械刈りで危ない場面も観られたが、今年はそんなこともなく作業ができた。

【運び出し】

ビニールシートが有効だった。
ガケの下に刈った草を運んだというのはよ
かった。このガケは外来植物がたくさん生え
てしまっているの、乙女の草のたねを供給
し、乙女らしい草原へと変えていきたい。
軽トラは限られているので、ビニールシート
のまま下まで運んでしまうグループがあっ
てもよかった。

草をしぼる紐があると、作業がはかどる。

【キッズ】

スタッフがとても協力的で、スムーズに仕
事がはかどり、とても良かった。

大人も子どもの楽しく作業ができた。
斜面にロープを張る、はしごを用意するな
ど、安全面への配慮がされていた。

林道は通行止めになっていたはずなのに、
バイクが進入してきてびっくりした。

「草刈りに来たのだから、草を刈る」とい
う子どもたちもいたので、別の日にしてもよ
かったかもしれない。

【豚汁】

豚汁を楽しみに参加する方がものすごく
多い。

以上反省点はいろいろありましたが、全体的にはスムーズに仕事が進められたと思います。
参加して下さった全ての皆さん、そして、この草刈りを支えて下さった全ての皆さん、ほとん
とにありがとうございました。来年もよろしくお祈りします。

第9回乙女高原フォーラム



シカが乙女高原の自然を変えている?!

フォーラムは9回目、シカの話は4回目

冬季通行止めで乙女高原に行きづらい冬に、乙女高原ファンが一堂に集まり、一流の講師から
乙女の自然を守るヒントになる話を聞こうという乙女高原フォーラム。今回で9回目となりました。

じつは、シカの話の聞こうといのは、厳密にいうと今回が2回目ではなく4回目です。

2007年1月の乙女高原フォーラムは「調べることで見えてくる、調べることで守るにつながる」をテ
ーマに行われましたが、ゲストの南 正人さんが「調べる」ことの例として挙げられたのが、ご自分が
ライフワークにしていられる金華山のシカでした。南さんとは、これを縁に、シカ問題について情報
交換させていただきました。

2008年3月の座談会では、櫛形山の森林科学館の石原 誠さんに「シカのウンチから植生を
考える」をテーマに話題提供いただきました。シカが櫛形山の植生に与える影響についてお一
人で調査を始められたというお話でした。

2009年1月の乙女高原フォーラムでは、東京農工大の星野義延さんから関東・中部地方の何
カ所かの20年前と今の植生の多様性を比べた調査結果を見せていただき、シカの影響の大きさを
驚きとともに認識させていただきました。

そして、今回は、「まずは相手を知ることが大事だ」という観点から、吉田 洋さんにシカについて
の基礎知識についてご講義いただきました。次に、シカ問題に取り組んでいる先進地として櫛形山
の事例について長池卓男さんにご報告いただきました。どれも今後の乙女高原での取り組みに参
考になることばかりでした。

フォーラムの1日ドキュメント

さて、フォーラム当日、いい天気になりました。スタッフは11時に会場となる山梨市民会館に集合
し、全体打ち合わせの後、係ごとに準備を始めました。さすがに9回目ともなると、皆さん手慣れたも
ので、スムーズに作業が進みました。12時ころには講師のお二人が到着し、会場を確認していただ
いた後、昼食を取っていただきました。

12時半から受付を開始しました。今回は、会員の加々美さんの発案で、大地震のあったハイチを支援する寄付金箱を受付に置きました。また、八ヶ岳自然クラブの皆さんが、八ヶ岳で行っているシカのライトセンサスのパネルを、甘利山倶楽部の皆さんが、甘利山で設置した手作りシカ柵の写真を持ってきてくださいましたので、これらを会場に展示させていただきました。

フォーラムは山梨市企画監の里吉さんの司会で始まりました。山梨市長職務代理者(副市長)の井戸さん、峡東林務環境事務所長の杉村さんのお二人からごあいさつをいただいた後、植原が進行しました。

ファンクラブ世話人の村田さんが1年間の乙女高原ファンクラブの活動をプロジェクターで紹介してくださり、植原が乙女のシカ問題の実情についてやはりプロジェクターで紹介させていただきました。

一人目のゲスト・吉田 洋さんの紹介をファンクラブ世話人の竹居さんにいただき、吉田さんのお話を聞きました。休憩をはさんで、二人目のゲスト・長池卓男さんの紹介を同じく三枝さんにいただき、長池さんのお話を聞きました。フロア全体で意見交換をし、進行のマイクを里吉さんにお返ししました。

ファンクラブ代表世話人の古屋さんからお礼のごあいさつをいただき、同じく坂田さんが諸連絡を行い、フォーラムが終了しました。参加者は92名でした。

みんなで大急ぎで片付けをした後、会場で茶話会を行ったのですが、なんと、34名が残って参加してくださいました。竹居さんや三枝さんが持参してくださったおいしいものをつまみながら、講師を囲んで意見交換の続きを行い、最後に、今年のフォーラムのゲストを務めていただいた星野さんに締めの言葉をいただいて、会を終了しました。

以下お二人のお話のダイジェスト版を以下に載せます(文責 植原)。

ニホンジカの生態と行動

吉田 洋(よしだ ゆたか)さん(山梨県環境科学研究所研究員。博士(農学))

1) シカの分類

- ・シカは蹄(ひづめ)のある動物。「偶蹄目」の中の「シカ科」。ウシに近い動物。
- ・シカは草原性でも森林性でもなく、その中間(木の葉も食べるし、草の葉も食べる)

2) シカの分布と形態

- ・ニホンジカは朝鮮半島やアムール川流域、中国、台湾にもいる。
- ・日本列島のニホンジカにはエゾジカ、キュウシュウジカなど7亜種がある。
- ・山梨に居るのはニホンジカの亜種ホンシュウジカ。
- ・ホンシュウジカはオスが体重平均70kg、メスが50kgとオスのほうが大きい。
- ・亜種により大きさが大きく違っている(エゾジカ>ホンシュウジカ)。
- ・カモシカとシカの糞はとてもよく似ている。カモシカはほとんど止まって糞を出す(だから、ため糞になる)、シカは歩きながらも糞をする。
- ・シカの蹄はじゃんけんのチョキのよう。中指と

薬指でチョキを作っている。

- ・シカは、ウシと同じく4つの胃を持つ(反芻動物)。
- ・一番目の胃(第一胃)が一番大きく、この中で人間には分解できないセルロースを微生物の助けを借りて分解している。
- ・それだけでなく、分解作業をしている微生物自体を、第4胃で消化している(微生物がタンパク源になる)。
- ・前歯は下あごにしか生えてない。上あごは歯茎が硬い。上下両方に前歯があるわけではないので、食べた草にはギザギザした跡が残る。
- ・歯には年輪ができる。最初の1年は乳歯が生えているので、「年輪+1」歳がそのシカの年齢になる。
- ・シカの角はオスだけに生える。生えてから半年かけて大きくなり、1年たつとポロリと落ちる。
- ・始แรกของ角は袋を被っているようなので「袋角」、秋になると枯れ枝のようになるので「枯れ角」と呼ばれる。
- ・角の形(枝分かれの様子)から年齢が推測できる。1本角はだいたい1歳。

3) シカの生活史

- ・春夏は鹿の子模様の毛になる。鹿の子模様は子だけでなく、大人も全部鹿の子模様の毛になる。
- ・秋冬になると長い毛が生えて体つきが太く見え、オスの角は枯れ角になる。
- ・秋になるとよく鳴く。万葉集では68首にシカが登場するが、歌の題材になっているのはシカの姿というよりシカの声(オスしか発声しない)。
- ・この声はなわばり宣言。発情期(交尾期)を迎えている声。
- ・発情期にはよく泥浴びをし、石や木の幹に体をこすりつけたり、フレーメンといって笑ったような顔になってメスの臭いをかいでいる。
- ・この時期、メスをめぐってオス同士の闘いが

起きる。

- ・シカのおっぱいは脂肪分が牛乳の2.4倍。子は体重10キロになると離乳。
- ・オスは育児に参加しない。
- ・シカは増えやすい動物。頭数が増え、それまで食べていた餌資源がなくなると、他のものを食べるようになる。
草 ササ 木の幹 落ち葉。

4) シカ対策

- ・シカ柵を作っても、たとえば車道を空けてしまえば、効果がなくなる。
- ・シカがいやがる音はあるが時間が経つと慣れる。なお、超音波は聞こえてない。

櫛形山のアヤメが消えた？

- ニホンジカの影響と対策 -

長池卓男(ながいけたくお)さん(山梨県森林総合研究所研究員。博士(農学))

1) 櫛形山で起きていること

- ・それまでも減少が報告されているが、2006年からアヤメが急減。
- ・南アルプス市が櫛形山アヤメ保全対策調査検討会(大久保栄治委員長)を立ち上げ、調査研究検討を行っている。
- ・咲かなくなった原因は様々考えられたが、その中で自然(植生遷移)説、ニホンジカ説が有力だった。2007年、検証実験を開始。
- ・ニホンジカの影響を排除するために植生保護柵を設置した(シカ説の検証)。
- ・柵の中で、そのままにしておく、大きな草を刈り取る、根から抜き取るという3つの実験を行い、その効果を比較する(自然説の検証)。
- ・結果、ニホンジカ説が有力。ニホンジカの入れない柵内ではアヤメが大きくなれるが、柵外ではニホンジカによると思われる摂食で大きくなれない。
- ・柵の中ではラン科のテガタチドリも咲いた。
- ・柵を作れば、柵の中の植物はシカの摂食から守れることがわかった(当面の対策として柵は有効)。
- ・なぜアヤメが急減した(=シカにねらわれるようになった)のか？ スズタケが枯れたことに

よるエサ不足？ 個体数が増加したから？

- ・柵の中は守れても、柵の外は守れない 根本的な対策が必要
- ・アヤメ以外のことはどう考えるか？ 櫛形山全体の自然をどう守るかマスタープランが必要。

2) 南アルプスで起きていること

- ・絶滅危惧種キタダケソウは今のところシカに食べられていないが、キタダケソウの分布域までシカは来ている。
- ・ミヤマハナシノブは食べられている。
- ・北岳の頂上直下でもシカが目撃されている。
- ・高山植物はこれまでシカに遭遇したことがない シカへの耐性がない 絶滅の危機があるのではないか。
- ・標高の低いところでエサ不足になり、標高の高いところへ移動している？
- ・林道のり面に草(エサ資源)があるので、高山帯に登って行ける？
- ・標高が高い場所でシカを排除するのは難しい。降りてきたところで排除する？
- ・シカに発信器をつけると、30キロを超える移動をしたシカも見られた。中には、夏になると標高の低いところへ移動するシカもあった。

・とりあえずシカ柵を設置するという緊急対策が必要。

3) ニホンジカの影響について考えること

- ・シカ柵は有効だが、壊れてしまうとエサが豊富な場所にシカを招き入れてしまうことになるので、こまめなメンテナンスが必要。
- ・調査員の一人が「櫛形山は静かになったなあ」花を訪れるハチやアブの羽音が聞こえなくなってしまった。シカの影響が間接的に昆虫にも及ぶのでは？
- ・シカはエサを食べる場所(草原)と隠れ場所(森林)がセットになっているところが大好き(乙女高原も大好き?!)・乙女高原近くの森林では、シカが木の幹をどんどん食べている。特にキハダは2003年にはシカの害はまったくなかったのに、2009年にはほとんどのキハダが

被害にあっている。このままでは、この地域のキハダは絶滅するだろう。

- ・多くなってしまったシカを減らすには狩猟。もう一方で、シカをこれ以上増やさないようにするには、どんな対策が必要かを考えなくてはならない。
- ・基本的にはエサを増やさないこと(間伐後の植生、林道ののり面、牧場)
- ・ニホンジカ自体への対策は、食べさせない(植生保護柵などでの防除)、個体数を減らす(狩猟・管理捕獲)、個体数を増やさない(生息地管理)の3つの取り組みが必要。
- ・柵を作ればその中は守られるが、ニホンジカは他の場所へ行く。捕獲したとしても増やす要因があるならば減らない。
- ・乙女高原では、緊急措置としては、ニホンジカに食べられないようにすることがまず重要。その上で、行政等含めて、3つの取り組みを有機的に実行する仕組みづくりが必要。

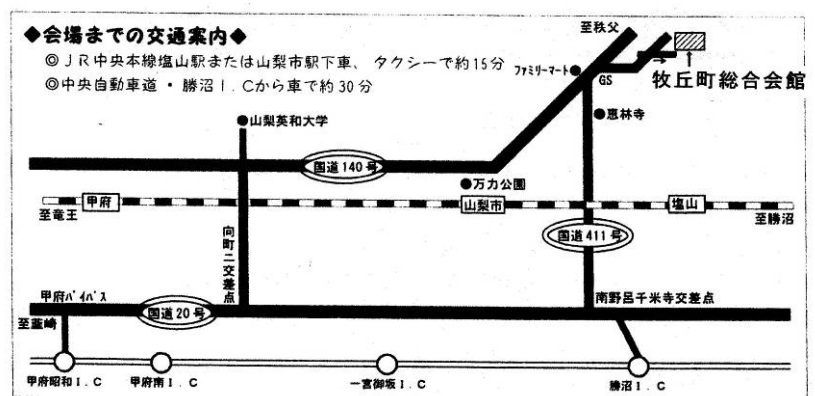
毎回毎回思うのですが、ホント、スタッフあつての乙女高原ファンクラブです。今回もたくさんの方がスタッフとして参加してくださいました。本当にありがとうございました。シカ問題に限らず、これからが乙女高原の正念場です。今後ともよろしくお祈いします。

2009年度総会 & 座談会のお知らせ

3月13日(土曜日)午後2時～ 牧丘総合会館3階大ホール

2009年度の活動報告と、2010年度の活動計画を通じて来年度の「乙女高原ファンクラブ」の進む方向を決める最高意思決定機関です。会場は牧丘総合会館。山梨市牧丘町窪平の「花かげホール」や「花かげの湯」の東下に見える建物です。

開会は2時ですが、会場準備を1時半から行いますので「準備を手伝ってもいいよ!」という方は1時半までにおいでください。



同封の出欠ハガキを(できるだけ)すぐに出してください

総会は委任状も含め普通会員の半数以上の出席がなければ成立しません。現段階で都合がわからないという方は、とりあえず 欠席+委任状 で結構ですから、忘れないうちにお出してください。欠席ハガキを出されても、都合がいたら、ぜひご出席ください。多くの方が参加していただければ、より有意義な会にすることができます。

座談会では坂田さんからネパールの話をお聞きします

総会に続く座談会では、毎回、「話題提供者」のお話が楽しみです。今回は乙女高原案内人の原さんから、原さんが乙女高原に来るたびにこまめに測っていた気温や地中温度の記録からわかったことをお話していただきました。それが、去年秋に設置した「データロガー（自動温度記録計）」につながっています（原さんにはデータロガーで得られた気温データについての記事執筆をお願いしてあります。お楽しみに！）

今回は、ファンクラブ代表世話人の坂田英明さんのお話をお聞きします。坂田さんは、昨年秋にネパールを訪れ、たくさんの写真を撮ってこられました。そんな写真の数々を見せていただきながら、お話をお聞きしましょう。

エベレスト街道トレッキング

坂田英明さん

友人に誘われていた、世界最高峰のエベレスト（ネパールではサガルマータ、中国ではチョモランマと呼ばれている）を、自分の目で見る事ができる「エベレスト街道」のトレッキングに向かい、天気にも恵まれてこの目で眺めてきました。途中では日本では味わえない4,200メートルのピークにも挑み、富士山より高い場所でテント泊まりを経験し、カトマンズではヒンズー教の文化に接して驚いて帰ってきました。

帰国してから、風邪の症状と下痢気味で草刈には出席できず大変失礼しました。



乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

乙女高原ファンクラブの会員には普通会员とサポーター会員の2種類があります。

会報（ニュースレター）は年4回発行予定です。年1回は全会員に送っていますが、今号も含め、あとの3号は普通会员にしか送りません。乙女高原での活動を多くの方に知ってもらいたいので、できるだけ普通会员での入会をお勧めください。会員が増えることで、乙女高原を守るファンクラブの発言力も強くなります。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」と、入会のご意志を事務局まで届けてくだされば、いつでも、だれでも会員になれます。ファックス、メール、手紙が確実です。
- ・入会金も年会費もありません。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが（委任状可）、サポーター会員にはありません。そして・・・、乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。

乙女高原ファンクラブへの連絡先

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@kcnet.ne.jp

会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://www.kcnet.ne.jp/~otomefc/>

郵便振込 (番号) 0220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ